

3年食物コース

揖斐の薬草文化を知るワークショップ

令和6年度 揖斐高 topics No. 11

3年食物コース12名が、6月7日（金）に科目「課題研究」の授業の一環として、いび薬草の里づくり推進協議会主催の薬草ワークショップに参加しました。これは、揖斐川町春日地域に古くから根ざしている薬草文化に触れ、薬草の魅力を知る貴重な機会です。

ワークショップでは、講師の四井智教氏（合同会社いびはる商舎代表）と藤田絹美氏（自然工房笹又代表）から薬草の活用の歴史について話を伺ったり、笹又で薬草を収穫したりしました。また、クラフトコーラ（岐阜コーラ）作りの体験を通して、古来より重宝されている薬草を新しいアイデアで伝統を受け継ごう！発信していこう！という気持ちを強くもつことができました。学んだことを私たちの商品開発に生かしていきたいと思います。

薬草の採取に挑戦する生徒たちー揖斐川町春日川合



揖斐川町に古くから根付く薬草文化に理解を深めようと、揖斐高校（同町三輪）生活デザイン科食物コースの3年生12人は7日、同町春日地区を訪れ、薬草の採取や、クラフトコーラ作りのワークショップに取り組んだ。魅力に触れた生徒たちは今後、薬草を活用した料理や商品の開発に取り組んでいく。（湯浅裕作）

古里の薬草 甘い匂い

揖斐高生、春日地区で採取 料理や商品開発へ

標高500mを超える伊吹山麓にある地には、ヨモギやイブキ、ショウワ、カキドオシなどの薬草が生い茂っていた。生徒たちは生産者の藤田美奈さんらから指導を受けながら、一つ一つ丁寧に切り取り、「甘い匂いがある」「爽快感がある」などと香りの違いも感じていた。3年高橋菜穂さんは「触り心地や匂いなど、さまざまな種類があった。お茶に混ぜることができれば」と語った。

今秋の「清流の国さか」文化祭2024（国民文化祭）全国障害者芸術・文化祭）開催に合わせ、町は薬草文化をPRする「いび薬草の里」づくりプロジェクトを推進している。薬草の採取やワークショップは、同校が開発を進めている。

標高500mを超える伊吹山麓にある地には、ヨモギやイブキ、ショウワ、カキドオシなどの薬草が生い茂っていた。生徒たちは生産者の藤田美奈さんらから指導を受けながら、一つ一つ丁寧に切り取り、「甘い匂いがある」「爽快感がある」などと香りの違いも感じていた。3年高橋菜穂さんは「触り心地や匂いなど、さまざまな種類があった。お茶に混ぜることができれば」と語った。

今秋の「清流の国さか」文化祭2024（国民文化祭）全国障害者芸術・文化祭）開催に合わせ、町は薬草文化をPRする「いび薬草の里」づくりプロジェクトを推進している。薬草の採取やワークショップは、同校が開発を進めている。

